Wednesday

1 WEEK MASTER
3rd DAY !!!

今日マスターすること TODAY'S GOAL !!!

「基本機能をさらに追求」

STEP 1 ・・(色の選択と塗り

STEP 2 ・・(選択範囲の達人になる

STEP 3 ・・(レイヤーの基本を押さえる

STEP 4 ・・(文字を使ってみよう

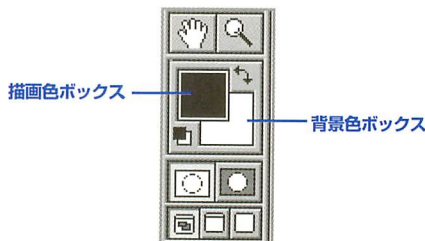
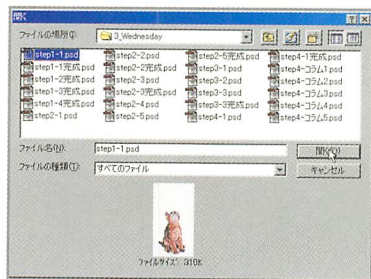
色の選択と塗り

「脱初心者」のススメ

昨日までは、基本中の基本といった機能を練習してきました。Photoshopを少し触ったことのある人なら、だいたい知っている内容だったのではないでしょうか。Photoshopはわかりやすいインターフェースなので、マニュアルなんか読まなくても、画面を見ればだいたいわかってしまいます。昨日まではちょうどそんなレベルです。Photoshopって、簡単なペイント系ソフトの延長でもあるので、とてもフレンドリーで取っ付きやすく、基本機能だけでも結構楽しめるんです。ところが、少し手の込んだことをしようとすると、とたんにやり方がわからなくなってしまいます。私も、写真のことなんてたいして知らずにPhotoshopを触り始めたので、ある時期そんなふうになってしまいました。やっぱり写真の技術や画像特有の考え方を知っておかないと、応用が効きません。今日からは「脱初心者」を目指して、基本操作の理解を深めるための練習を始めましょう。

なお、明日からは実践作業に入りますので、基本的な操作はここまででしっかりと身に付けておいてください。

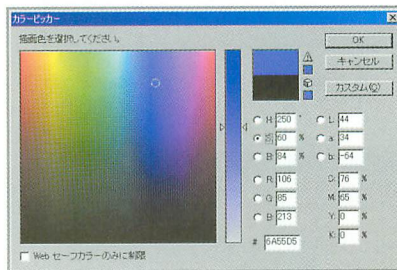
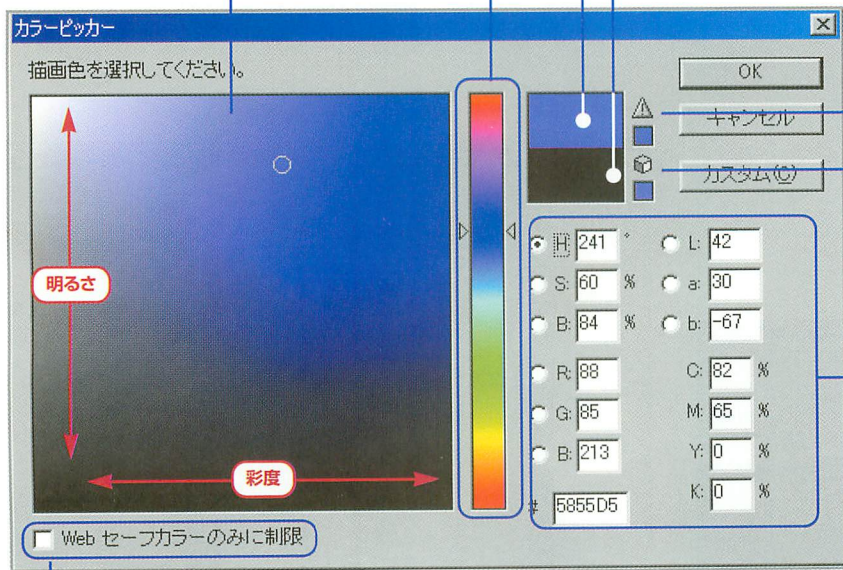
カラーピッカーを使った色選び

色見本にはある程度の色数が登録されていますが、それ以外の色を指定する方法を説明します。昨日練習したとおり、色には「描画色」と「背景色」がありましたよね。そのことを意識しながら練習を進めてください。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] で「3_Wednesday」フォルダにある「step1-1.psd」を開いてください。

2 ツールボックス下の描画色ボックスをクリックします(現在は何色になっていてもかまいません)。

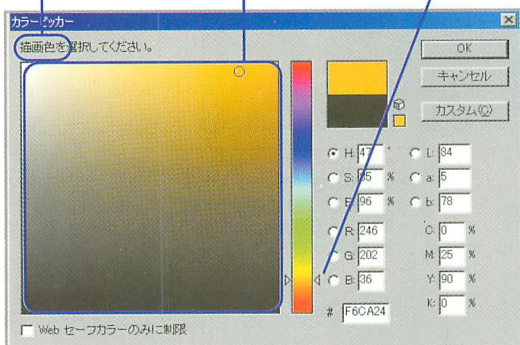
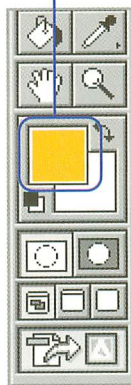
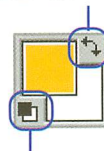
☞ヒント!!

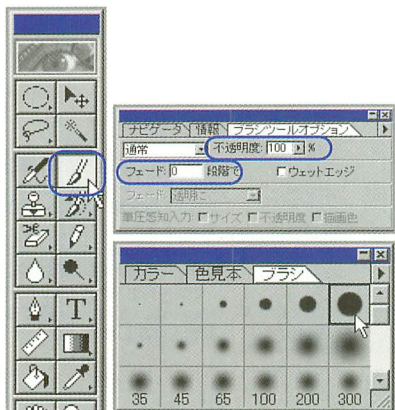
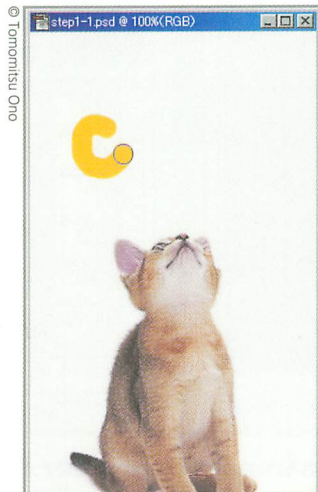
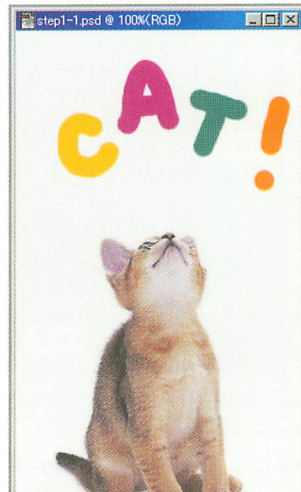
カラーピッカーの表示が違うときは

初期設定のカラーピッカーは、こんな虹色で表示されるはずです。もしこれと違うようなら、「HSB」のHのラジオボタンをクリックしてください。実際は配置方法が違うだけで、内容的には変わらないのですが、最初はこの形式にしておいたほうがいいでしょう。

3 カラーピッカーが現れます。カラーピッカーでの色の選択方法に入る前に、カラーピッカーの各項目が何を示しているのかを確認しておきましょう。

ここがポイント!!

描画色と背景色

ツールボックス下の描画色と背景色のボックスは、間違わないようにクリックしてください。[カラーピッカー] ダイアログボックスで「〜を選択してください」のところがどちらになっているか、必ず確認してください。

4 ここでは、表示されている色から選んで指定してみます。まずスライダを動かして色相を決めます。ここでは黄色を選びました。左のボックス内で好みの色のところを直接クリックし、色を選択します。[OK] ボタンをクリックして完了です。

5 カラーピッカーで選んだ色が、ツールボックスの描画色ボックスに表示されます。

6 [ブラシ] ツールを選択し、[オプション] パレットの [不透明度] は [100] %、[フェード] は [0] 段階に設定し、[ブラシ] パレットで適当な太さを選びます。

7 アルファベットの大文字の「C」を書いてみましょう。指定した描画色で書かれるはずです。

8 同様の手順で描画色を変えながら、図のように「CAT!」という文字を書きましょう。

スポイトツールで色をピックアップ

写真画像の中にある色を使いたいときは、［スポイト］ツールを使います。ツールボックスの［スポイト］ツールを選択して、使いたい色のところをクリックしてください。その位置にあった色が描画色に入ります。［スポイト］ツールで背景色を拾いたいときは、Altキーを押しながらクリックします。

1 さきほど書いた文字の中の1色を描画色にしてみます。ツールボックスから［スポイト］ツールを選びます。［スポイト］ツールで文字をどれかクリックしてください。

2 ［スポイト］ツールでクリックした色が描画色に入ります。

3 次に背景色も入れましょう。［スポイト］ツールで、Altキーを押しながら適当な色をクリックします。

4 今度は、［スポイト］ツールでクリックした色が背景色に入ります。

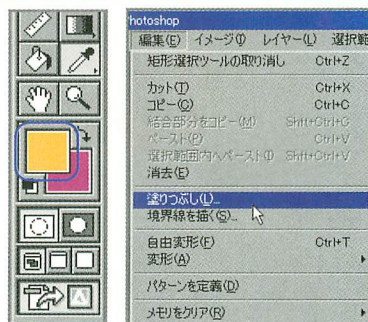
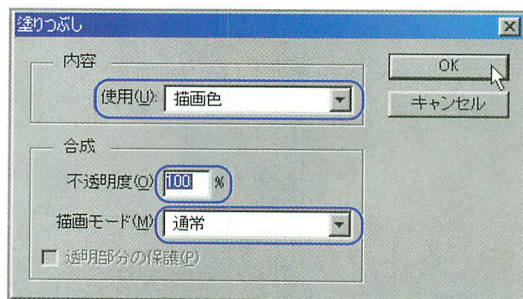
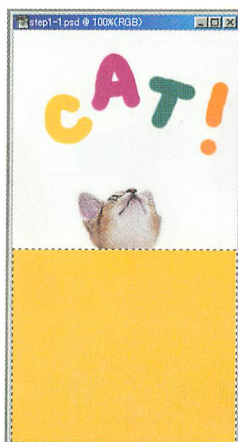
選択範囲を塗りつぶす

ここでは「月曜日」に練習した「塗りつぶし」を使って、選択範囲に色を塗ってみます。

1 ツールボックスから［矩形選択］ツールを選んで、猫の体が隠れるようにドラッグして大きな長方形を描いてください。

ここがポイント!!

塗りつぶし

［編集］メニュー→［塗りつぶし］は、［不透明度］を指定できます。だから、下の写真が透けて見えるような塗り方も可能です。

2 ツールボックスの描画色が何色になっているか確認しておいてください。それから［編集］メニュー→［塗りつぶし］を選びます。

3 ［塗りつぶし］ダイアログボックスが出てきます。［使用］を［描画色］にして、［不透明度］の入力ボックスに［100］%と入力します。［描画モード］は［通常］にして、［OK］ボタンをクリックします。

4 長方形が描画色で塗りつぶされました。Ctrlキー＋Dで選択解除しておいてください。

ヒント!!

半透明効果

［塗りつぶし］ダイアログボックスの［不透明度］を［50］%にすると、半透明で塗ることができ、写真が透けて見えます。

ちょっとコラム 便利なショートカットを覚えよう

塗りつぶしに関するショートカットを紹介します。

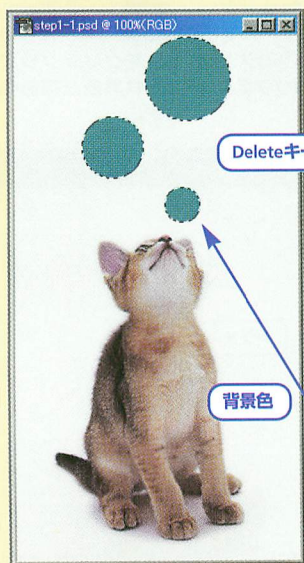
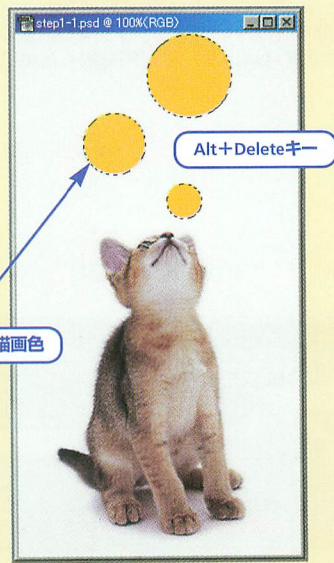
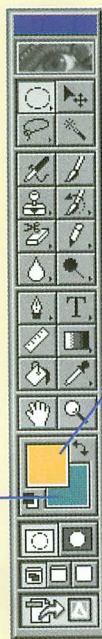
(1) 選択範囲を背景色（100%）で塗る：Deleteキー（またはBackspaceキー）

Photoshopでは背景色を下地の色として扱うため、背景色で塗るというよりは、選択範囲を地の色に戻すということになります。

(2) 選択範囲を描画色（100%）で塗る：Alt＋Deleteキー（またはBackspaceキー）

Altキーには「反対のこと」という意味合いがあります。Deleteキーだけだと選択範囲を背景色で塗りつぶしますよね。それにAltキーを加えることで、反対のことをする、つまり描画色で塗りつぶすというわけです。中級レベルの人たちはこのショートカットをビシバシ使っています。よりスピーディーに作業できますからね。

(3)［編集］メニュー→［塗りつぶし］：Shift＋BackSpaceキー

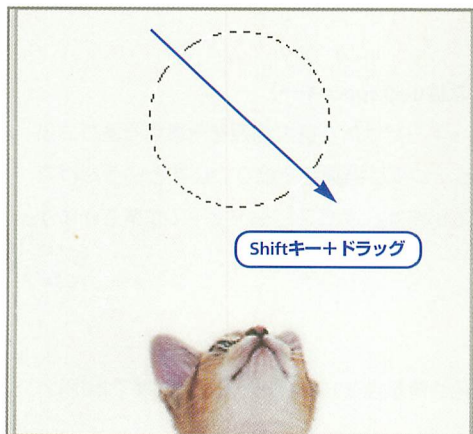
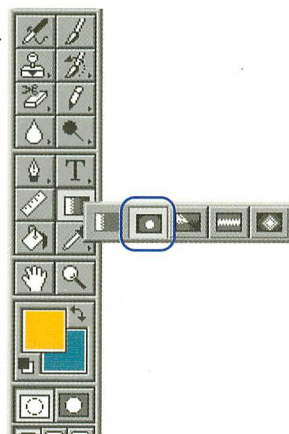
これは［塗りつぶし］ダイアログボックスが現れます。描画色や背景色を100%以外の不透明度で指定したいときに便利です。

▲［楕円形選択］ツールで選択して、Deleteキーを押すと、背景色100%で塗りつぶされます（レイヤー上で塗りつぶす場合はCtrl＋Deleteキー）。

▲［楕円形選択］ツールで選択して、Alt＋Deleteキーを押すと、描画色100%で塗られます。

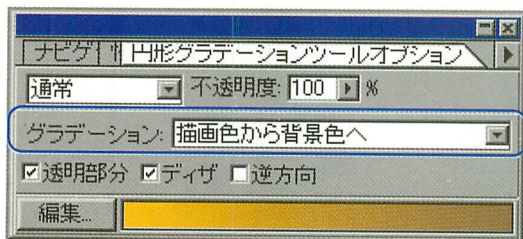
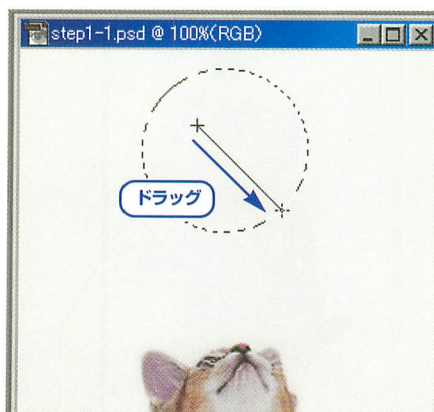
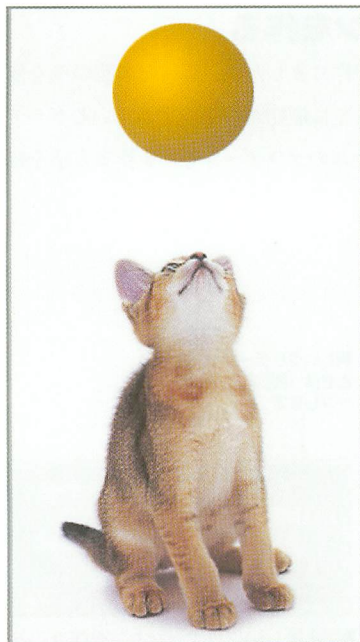
☞ヒント!!

グラデーションツールのドラッグ

選択範囲の外からドラッグしても、選択範囲の中だけにグラデーションがつきます。

グラデーションの基本

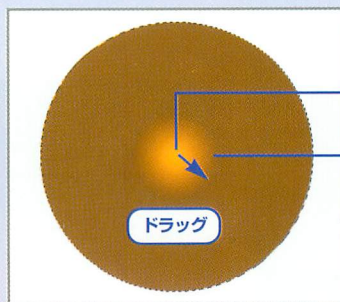
Photoshopでは、2色またはそれ以上の色を使ったグラデーションを作ることができます。これは専用の［グラデーション］ツールを使い、色の設定は描画色と背景色、それと［オプション］パレットで行います。まず基本的な2色のグラデーションを作ってみましょう。

1 ツールボックスの［楕円形選択］ツールで、Shiftキーを押しながらドラッグし、猫の上に正円を描きます（Shiftキーは正円を描くために押します）。

2 ツールボックスから［グラデーション］ツールを選びます。ここでは［円形グラデーション］ツールを選びます。

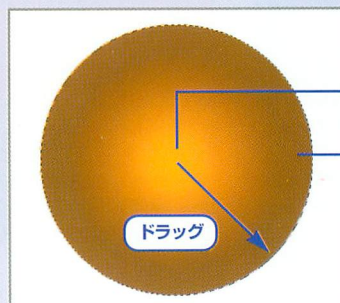
3 ツールボックスの描画色、背景色ボックスをクリックして、それぞれ黄色と茶色を選びます。

4 ［オプション］パレットは出ていますか？　出ていなければ、［ウインドウ］メニュー→［オプションを表示］で出してください。［グラデーション］を［描画色から背景色へ］にします。

5 ［グラデーション］ツールで正円の左上から斜め右下に向けてドラッグします。失敗しても、選択範囲を解除しなければ、何度でもドラッグし直せます。

6 描画色から背景色へと変わるグラデーションができました。ここでは描画色に明るい色を選んでおいたので、ハイライト効果で立体的な球体を表現できました。Ctrlキー＋Dで選択解除します。

ここがポイント!!

[グラデーション] ツール

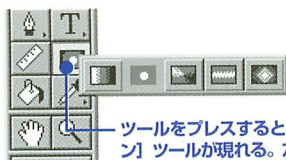
[グラデーション] ツールでは、ドラッグしてグラデーションを作成しますが、[オプション] パレットで [描画色から背景色へ] を指定した場合、ドラッグの始点が描画色、マウスのボタンを離したところが背景色になります。ドラッグする方向や長さにも気を付けましょう。

描画色
背景色
ドラッグ

◀ [グラデーション] ツールでドラッグする距離が短い場合。

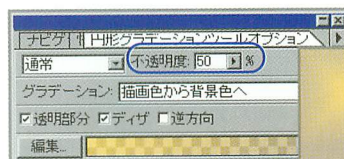
描画色
背景色
ドラッグ

◀ [グラデーション] ツールでドラッグする距離が長い場合。

☞ヒント!!

グラデーションの種類

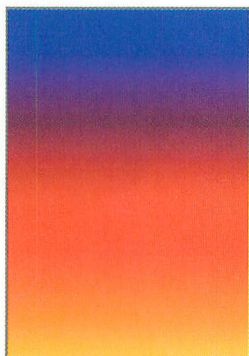
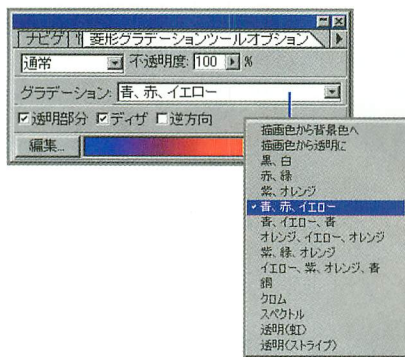
グラデーションには5種類の表現方法が用意されています。ここでは基本的な円形グラデーションを使いましたが、時間があればいろいろ試してください。種類の切り替えは、ツールボックスの [グラデーション] ツールをプレスして行います。

ツールをプレスすると、5種類の [グラデーション] ツールが現れる。左から、線形、円形、円錐状、反射、菱形。

☞ヒント!!

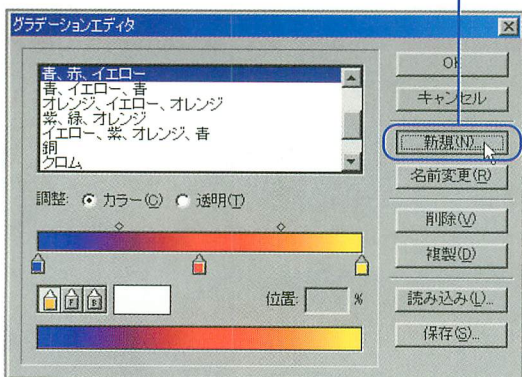
グラデーションの不透明度

[グラデーション] ツールの [オプション] パレットには、[不透明度] の設定欄があり、半透明でグラデーションを塗ることもできます。

▶写真全体に [不透明度] 50%でグラデーションを適用。

オリジナルグラデーションを作る

2色グラデーションは、描画色と背景色とで作りましたが、もっと多数の色を使ったグラデーションを作ってみましょう。ここでは最初から用意されているグラデーションの使い方と、それを編集してオリジナルのグラデーションを作る方法を紹介します。

1 [グラデーション] ツールのオプションパレットの [グラデーション] には、グラデーション方法が何種類か用意されています。リストを開いてみると、多数色のグラデーションも用意されていますね。そこから選ぶだけで、いろいろなグラデーションが使えます。

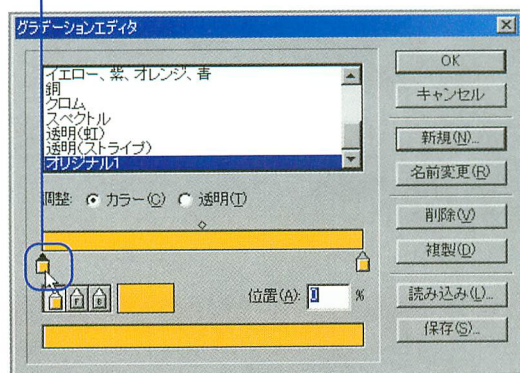
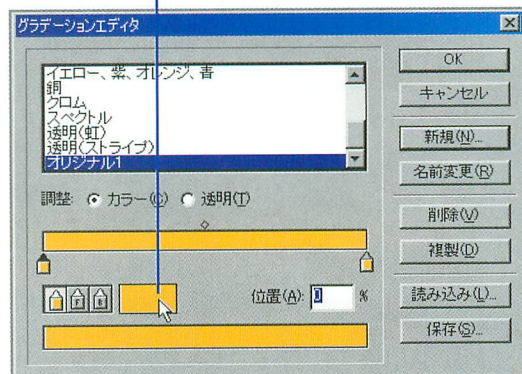
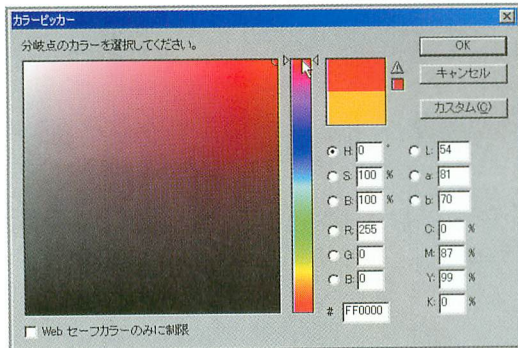
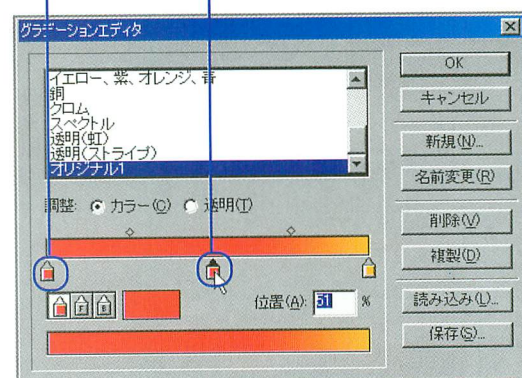
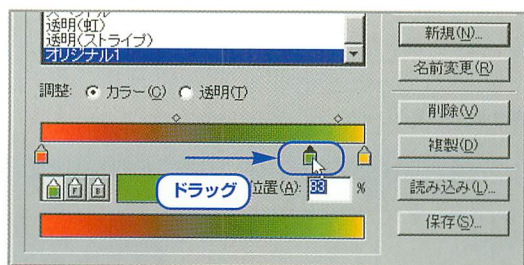
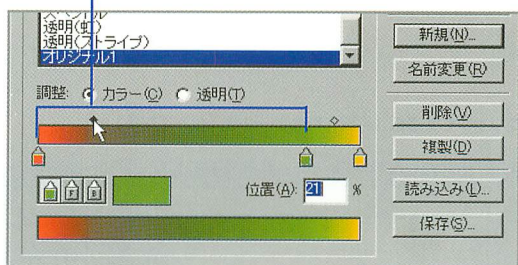
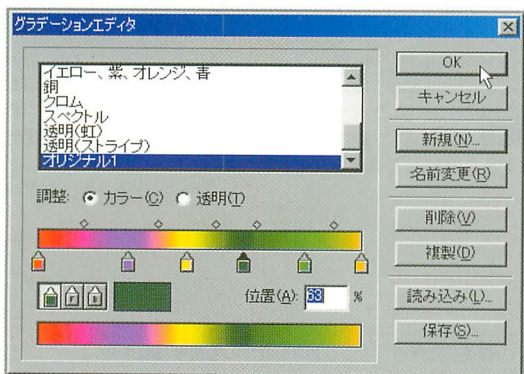
2 試しに、[青、赤、イエロー] の3色のグラデーションを使ってみました。操作方法は2色のグラデーションのときと同じです。

3 新しいグラデーションを作ってみましょう。[グラデーションツールオプション] パレットの [編集] ボタンをクリックしてください。

4 グラデーション編集用のダイアログボックスが現れます。ここでは新しいグラデーションを作るので、[新規] ボタンをクリックしてください。

☞ヒント!!

グラデーションの削除

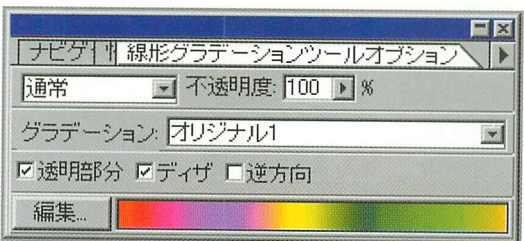
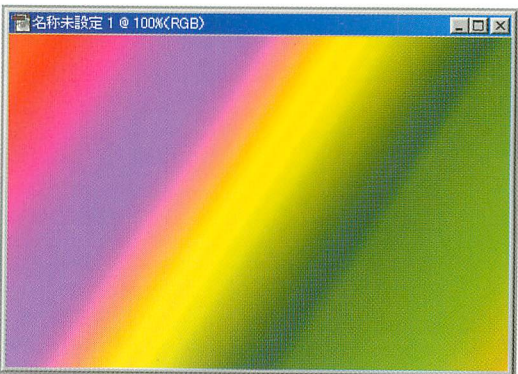
間違って作ったグラデーションや不要なグラデーションは、[グラデーションエディタ] ダイアログボックスのリストから名称をクリックして選び、[削除] ボタンをクリックすると、削除することができます。

5 まずグラデーションに名前を付けます。あらかじめ「グラデーション1」と入っていますので、このまま [OK] してもかまいませんが、ここでは「オリジナル1」としておきましょう。

6 グラデーション名がリストに加わります。スライダの両端に家のようなマーカーがあります。左側のマーカーをクリックすると、△が▲になります。そのマーカーが選択されていることを意味します。

7 次に、色のボックスをクリックして、色を変更します。ここではグラデーションの始まる左側の色を指定することになります。

8 カラーピッカーが現れます。色指定方法はこれまでと同じです。適当な色を選んでください。ここでは赤にしています。色が指定できたら［OK］ボタンをクリックします。

9 左側のマーカーの色が赤に変わりました。右側はそのままでいいでしょう。さらに、その中間に新しく3色目の色を作ってみましょう。スライダのすぐ下でクリックしてください。新しいマーカーが現れます。このマーカーには緑色を指定してみましょう。

10 マーカーをつかんで右側にドラッグすると、赤の部分が多くなります。

11 スライダの上の◇は、クリックして選択すると◆になります。これは2色の中間色のある位置を意味します。これもドラッグすることで、中間色の位置を変更することができます。

12 スライダ上をクリックして、4色目、5色目と新しい色を追加して、それぞれに色を指定しましょう。指定が済んだら［OK］ボタンをクリックします。

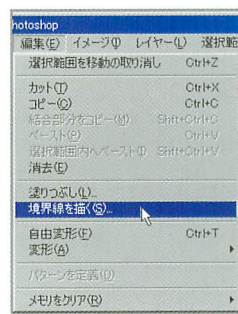
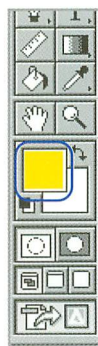
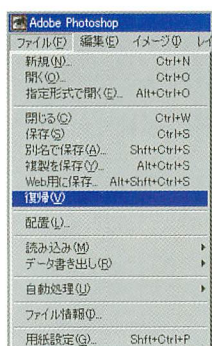
☞ヒント!!

不要な色を削除するには？

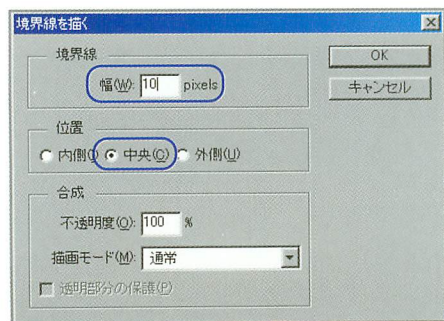
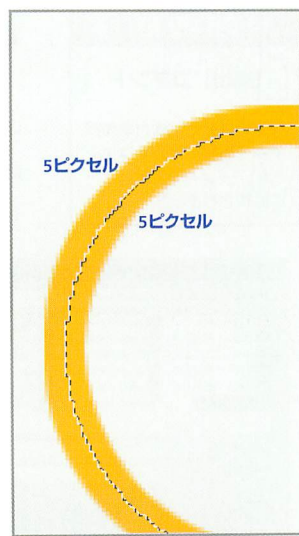
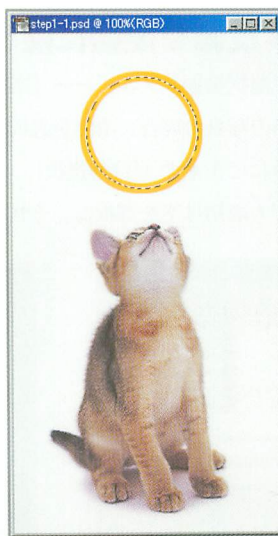
もし増やしすぎたり、不要な色が出た場合は、スライダの外にドラッグすることで捨てられます。

◀ 不要な色はスライダの外にドラッグして削除できます。

13 グラデーションの［オプション］パレットに戻ると、自作のグラデーションが「オリジナル1」として登録されています。これを選べばいつでも使えます。

14 さっそくこのグラデーションも利用してみましょう。色数が多くなると、色の組み合わせが難しくなりますが、うまくいくときれいなグラデーションができますよ。

選択範囲に輪郭を付けるには

選択範囲は単色のほか、グラデーションでも塗れることがわかりましたが、今度は、その選択範囲に枠線を付ける方法を紹介します。もし選択範囲を解除してしまったら、［楕円形選択］ツールで適当な範囲を選択しておいてください。

1 ［ファイル］メニュー→［復帰］を選び、元の状態に戻します。ツールボックスから［楕円形選択］ツールを選び、Shiftキー＋ドラッグで猫の上に正円を描きます。

2 描画色を黄色に指定します。

3 ［編集］メニュー→［境界線を描く］を選びます。

4 境界線の［幅］を［10］ピクセルにします。［位置］は［中央］とし、そのほかは初期設定通り（上図）で［OK］ボタンをクリックしてください。

5 選択範囲の境界線（破線で表示されていたところ）を中心に、外側に5ピクセル、内側に5ピクセルの計10ピクセルの幅で線が作られます。このステップはここで終わります。クローズボックスをクリックし、保存しないで閉じてください。

選択範囲の達人になる

選択の重要性

選択範囲については昨日も練習しましたが、今日はさらに選択の奥義を紹介します。メニューにもわざわざ「選択範囲」というのが用意されているほどですから、Photoshopがいかに選択機能に力を入れているかわかりますよね。写真加工ソフトであるPhotoshopは、どんな写真が来ても思い通りの部分を選択できるように、配慮しているのです。

これから、以下の選択機能を練習します。

(1)［選択範囲］メニューの中から便利なコマンドを使う。
(2) 選択範囲の位置を調整する。
(3)［ペン］ツールの基本的な使い方を覚える。
(4) クイックマスクを使い、ペイント感覚で選択範囲を作る。
(5) 抽出コマンドを使う。

☞［ペン］ツール

ベジェ曲線を使ってパスを作れるので、思い通りの形を作成することができます。それを選択範囲に変換することで、他の選択ツールでは不可能な形でも選択できるのです。基本的な操作はIllustratorと同じです。

☞クイックマスク

マスクという名前が付いていますが、早い話、選択しにくい部分をうまく選択するための機能です。

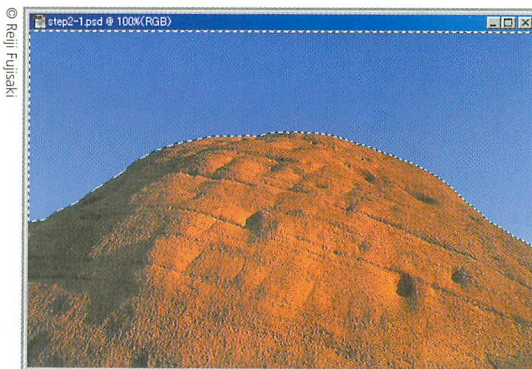
☞新機能!!

［抽出］コマンド

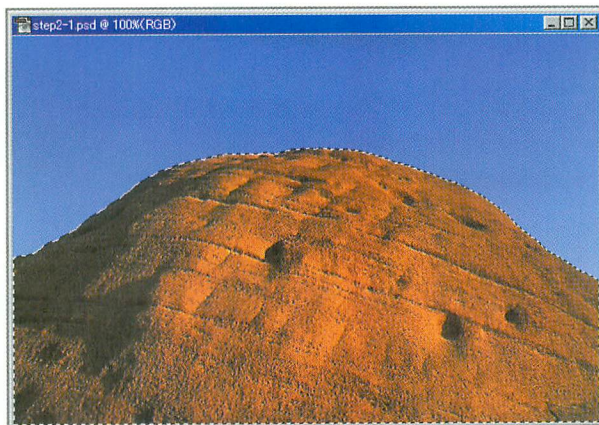
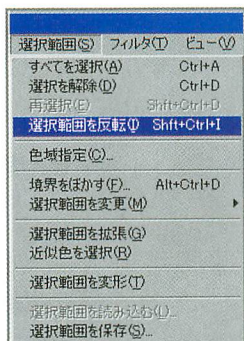
切り抜きなどに威力を発揮する［抽出］というコマンドが、［イメージ］メニューに追加されました。

反転を便利に使う

［選択範囲］メニュー→［選択範囲を反転］はとても便利なコマンドです。図2の山の写真の場合、山側を選択するよりも、ほとんど水色1色の空を選択する方が簡単にできます（［自動選択］ツールで簡単に選べます）。このように、山を選ぶ場合でも最初は空を選択し、それを反転して山を選ぶのが賢い方法なのです。

1 「3_Wednesday」フォルダから「step2-1.psd」を開きます。

2 ［自動選択］ツールで空をクリックして、空を選択します。

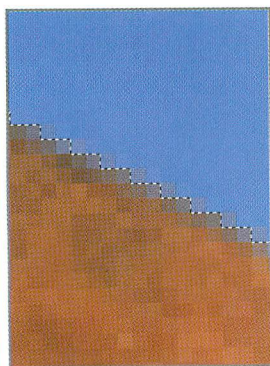
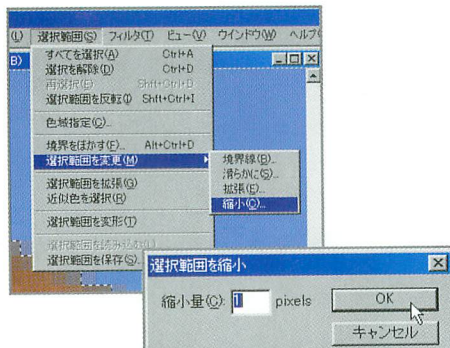
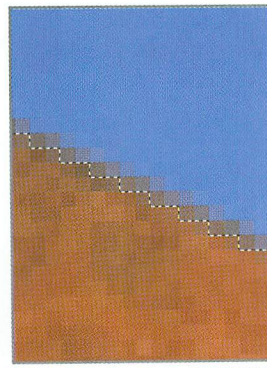
☞選択範囲を反転

ショートカットキーはShift＋Ctrlキー＋Iです。Iは「Invert（反転）のI」と覚えておきましょう。

3 ［選択範囲］メニュー→［選択範囲を反転］（Shift＋Ctrlキー＋I）を実行します。

4 選択範囲が逆転して、山の方が選択されました。

☞ヒント!!

選択範囲を小さくする

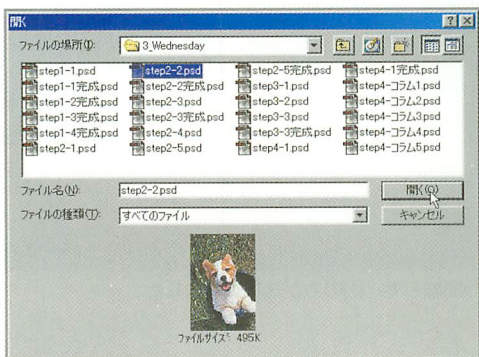
選択範囲の境界部分がきちんとなっていないときは、もう少し内側になればいいんだけど、なんてことがよくあります。そんなときの対策を紹介しましょう。

1 山が選択されたところの拡大表示です。よく見ると、輪郭部分に青っぽい色が混じっています。

2 ［選択範囲］メニュー→［選択範囲を変更］→［縮小］を選びます。どれくらい縮小するかを［縮小量］で指定します。指定の単位はピクセルです。

3 指定したピクセル数だけ選択範囲が内側になるので、青っぽい部分が混じらないようになりました。

☞ヒント!!

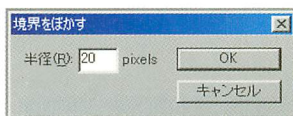
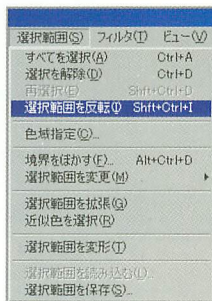
合成写真でも大活躍

Photoshopでは合成写真などを作る際に、写真の境界を目立たなくするために、少し輪郭をぼかしてから合成します。

輪郭をぼかす

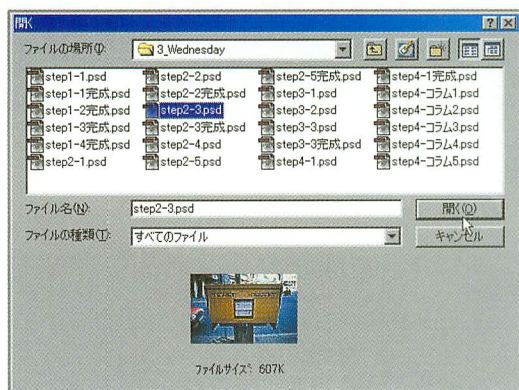
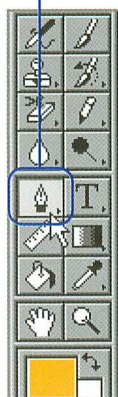
選択範囲の輪郭をぼかすテクニックは、さまざまな場面で利用されます。今回はぼかしの程度を大きくして、雰囲気のある切り抜き写真を作る方法を紹介します。

1 今度は犬の写真を使って練習しましょう。[ファイル] メニュー→ [開く] を選択して、「3_Wednesday」フォルダから「step2-2.psd」を選びます。

2 [楕円形選択] ツールでドラッグして、犬の顔を選択します。

3 [選択範囲] メニュー→ [境界をぼかす] を選びます。

4 ぼかし具合を指定するダイアログボックスが現れます。効果をしっかり確認するために、少し多めに [20] ピクセルとします。画面ではあまり変化がないですが、最後に効果がちゃんとわかりますので、このまま続けましょう。

5 [選択範囲] メニュー→ [選択範囲を反転] を実行します。

6 これで背景の方が選択状態になります。Deleteキーを押して背景を削除すると、ほら、輪郭がぼけているのがわかりますよね。この写真は保存しないで閉じましょう。

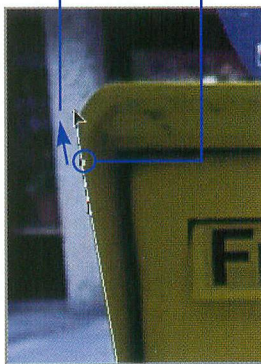
ペンツールを使ってみよう

複雑な形でも、［ペン］ツールを使えばきちんと選択できます。ちょっと使い方が難しいかもしれませんが、慣れると本当に便利なツールですから、頑張って練習してください。

1 ［ファイル］メニュー→［開く］を選択して、「3_Wednesday」フォルダから「step2-3.psd」を開きます。

ここがポイント!!

［ペン］ツールの基本

［ペン］ツールはベジェ曲線を描くものです。操作の基本は、直線を描くときはクリックしながらパスを作り、曲線を描くときはドラッグしながらパスを作ります。ドラッグするとハンドルが出てきます。ハンドルは曲線の曲がり具合を決めるもので、ハンドルが長いと曲線も大きくなります。曲線はハンドルの方向へ引っ張られるので、ハンドルの方向も重要です。曲線を描くときのコツは、ドラッグは短めに（ハンドルは短めに）、ドラッグは進行方向に出す、ということです。［ペン］ツールを習得したい方は、Illustratorの参考書を参照されるとよいでしょう。

2 ［ペン］ツールは、プレスするといろんな役目の関連ツールが収められていますが、ここでは図の［ペン］ツールを使います。

3 ［ペン］ツールでポストの形を選択してみましょう。スタートはどこからでもいいのですが、ここでは左下から始めます。図の位置でクリックしてください。

ヒント!!

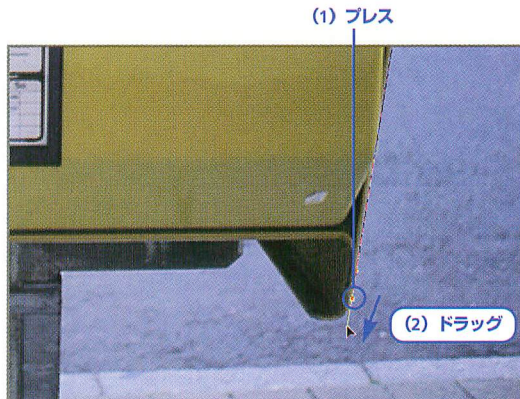
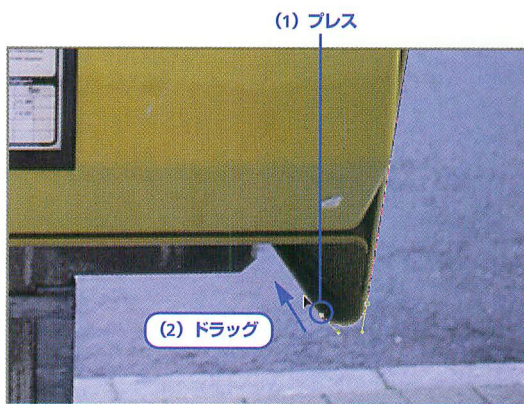
マウスボタンは離さない

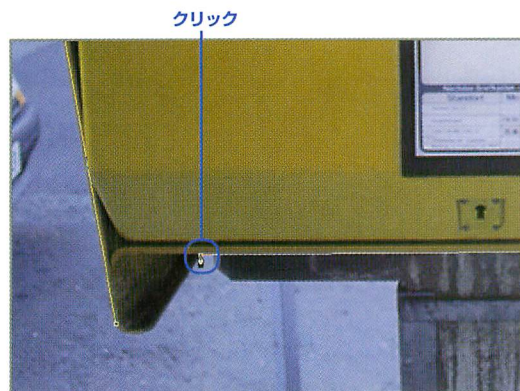
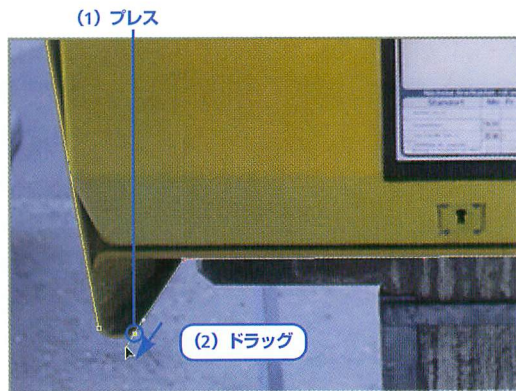
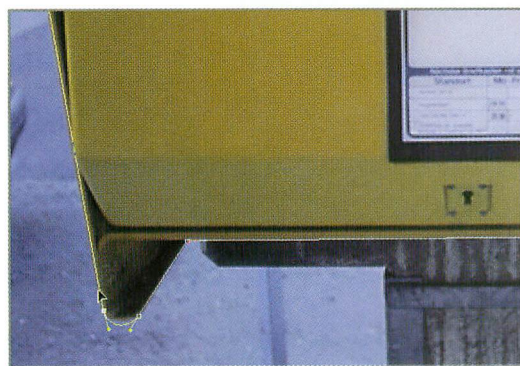
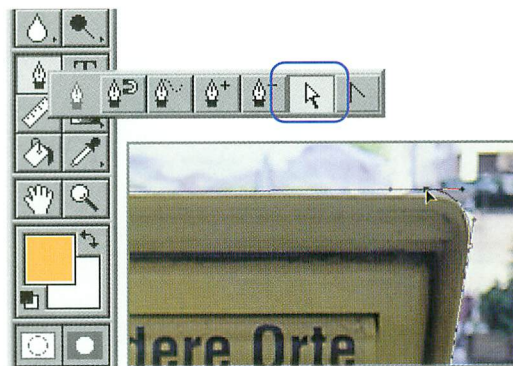
曲線を作成するには、ポイントからハンドルというものを出しながら作業します。ハンドルを出すには、ポイントを置くためにマウスボタンを押した後、マウスボタンを離さずにドラッグします。

4 ここでは確認しやすいように拡大表示で作業しています。左上角の位置でマウスボタンを押してポイントを置き、ボタンをプレスしたまま上方向に少しだけドラッグします。

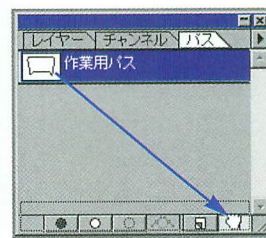
5 角を曲がって、ポイントを置き、プレスしたまま右方向にドラッグします。

6 右上でポイントを置き、プレスしたまま右方向に右角までドラッグします。

7 右上の角を曲がってポイントを置き、プレスしたまま下の方向にドラッグします。

8 右下でポイントを置き、プレスしたまま下の出っぱりまでドラッグします。

9 右下の角を曲がってポイントを置き、プレスしたまま左上にドラッグします。

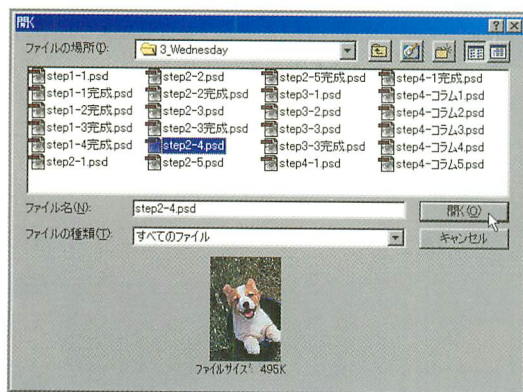
10 右下の出っ張り部分の付け根の部分（直線にはいる前）でクリックしてポイントを置きます。

11 左へ進んで、出っぱりの始まりでクリックします。

12 左下の角でポイントを置き、プレスしたまま左下方向へドラッグしていきます。

13 最後は元の位置に戻ると、［ペン］ツールのポインタのわきに○が表示されます。

14 パスを直す必要があるなら、［パス選択］ツールでアンカーポイントやハンドルをドラッグして修正することも可能です。

15 ［パス］パレットの［選択範囲としてパスを読み込む］アイコンをクリックします。これでパスが選択範囲に変換されます。

16 パスで囲んだ部分が選択範囲になりましたよね。まだパスは残っています。

17 パスが不要だったら、ゴミ箱にドラッグして捨ててもかまいません。

クイックマスクを使う

クイックマスクは、一時的にマスク版を作り、そのマスクに修正を加えながら選択範囲を作り出す機能です。感覚としては、ペイントしながら選択範囲を作るってイメージで、赤い特殊なマスクインクを塗っていきます。複雑な形や似た色など、うまく選択できない場合に利用すると便利です。

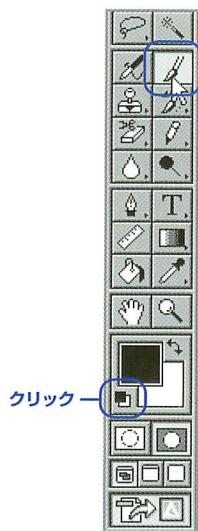
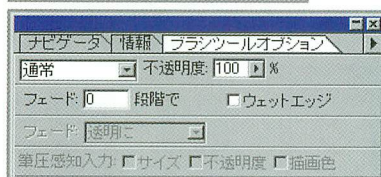
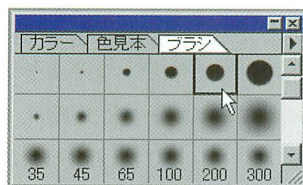
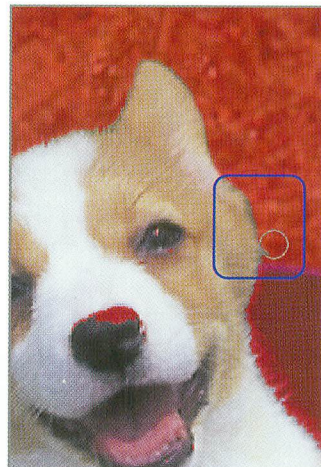
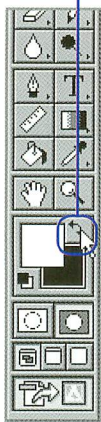
それでは、新しい写真を使って練習を始めましょう。画面に他の写真が出ていたら閉じてください。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] を選択して、「3_Wednesday」フォルダから「step2-4.psd」を開きます。

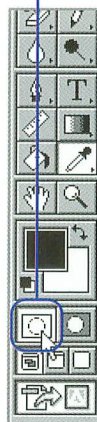
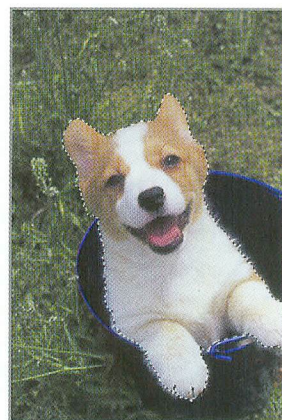
2 この子犬だけを選択してみましょう。[自動選択]ツールで完璧に選択するのは難しそうですが、大ざっぱでもかまいませんから選択してください。失敗したら、すぐにCtrlキー＋Zしてやり直しましょう。

> **ヒント!!**
>
> **クイックマスクの色**
>
> クイックマスクの色は、初期設定では赤になっています。これは製版で利用されているマスク用のフィルムの色が赤だからです。赤だと下の写真と区別しにくいという場合は、クイックマスクのアイコンをダブルクリックして、他の色に変更することができます。

3 ツールボックスの[クイックマスク]アイコンをクリックします。

4 選択されていない部分が赤で表示されます。赤い部分が、ふさがれている部分です。

5 細かい部分を修正するために、[ズーム] ツールで囲んで犬の顔の部分を拡大しましょう。

6 ［ブラシ］ツールを選択します。初期設定カラーアイコンをクリックして、描画色を黒、背景色を白にします。

7 ［ブラシ］パレットからサイズを選びます。あまり大きくなくていいでしょう。［ブラシオプション］パレットは初期設定のとおり、［不透明度］100%、［フェード］や［ウェットエッジ］は設定しないでおきます。

8 描画色を黒にしている場合、クイックマスクモードでは赤い色でペイントされます。選択範囲にしたくないところをペイントしていきましょう。赤いインクで塗りふさいでいくという感じです。

9 ツールボックスの［描画色と背景色の入れ替え］アイコンをクリックして、描画色・背景色を入れ替えます。

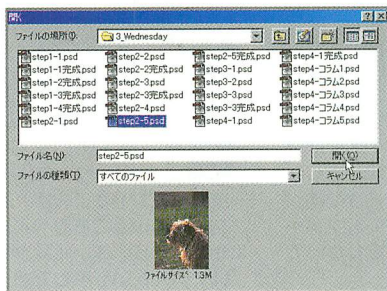
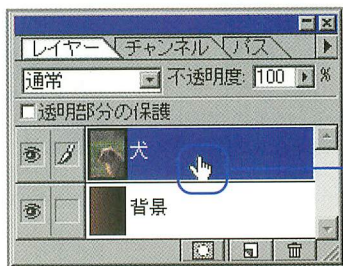
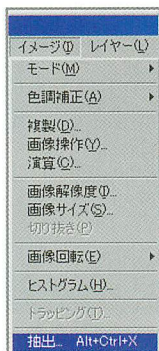
10 赤で表示されている部分（非選択部分）を白で塗って、選択範囲にします。白を塗るというより、赤を除去するという感じです。

11 ツールボックスの［通常モード］をクリックして元の状態に戻します。

12 クイックマスクモードで赤だったところ以外が選択範囲となっています。選択の練習はこれで終わります。写真は保存せずに閉じてください。

切り抜き写真を作る

☞新機能

抽出

[抽出] コマンドは、Photoshop5.5からの新機能です。髪の毛など切り抜きが困難な写真を手早く切り抜くときに便利です。ただし、ここで練習しているように解像度の低い画像では、どうしても輪郭が粗くなってしまいます。

写真の一部分を切り取った写真を「切り抜き写真」と言います。たとえば、人物や動物、商品などでそれ1つだけ効果的に見せたいとき使います。しかし、髪の毛、動物の毛など、複雑に入り組んだ形を切り抜くのは大変です。そんなときに便利な機能が「抽出」です。色を自動的に判断してくれるので、大ざっぱな操作でもちゃんと毛の部分まで切り抜いてくれます。マウス操作に慣れていないとちょっと難しいかもしれませんが、繰り返し練習してみましょう。もちろん [ペン] ツールでばっちり輪郭をトレースできるという人は、この機能のお世話になることはないかもしれませんね。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] を選択して、「3_Wednesday」フォルダから「step2-5.psd」を開きます。

2 操作を確認しやすいように、あらかじめ背景を作成してあります。これから犬を切り抜きますので、[レイヤー] パレットの [犬] レイヤーをクリックして選択します。

3 [イメージ] メニュー→ [抽出] (Alt＋Ctrlキー＋X) を選びます。

4 [抽出] ダイアログボックスが開きます。[境界線マーカー] ツールを選び、犬の輪郭をドラッグします。ブラシのサイズが大きいようなら、[ツールオプション] の [ブラシサイズ] の数値を小さくしてください。ドラッグした輪郭は黄緑色の線で示されます。

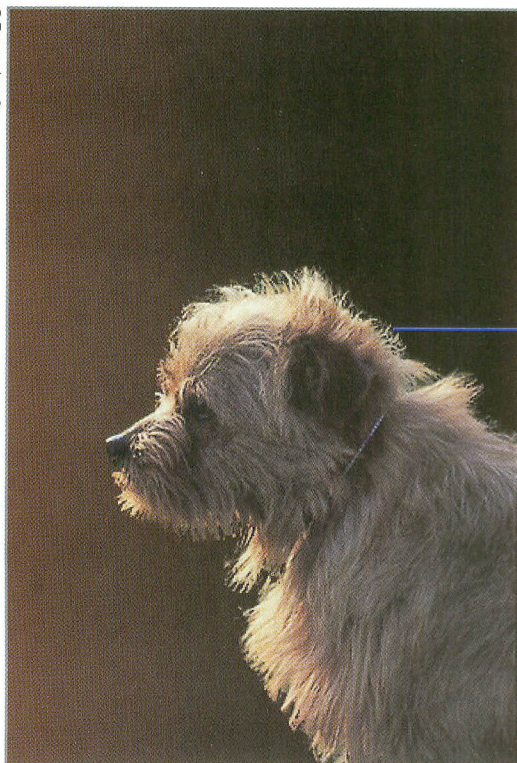
☞ヒント!!

ダイアログボックスが大きすぎる!

[抽出] ダイアログボックスは、かなり大きいサイズで表示されますが、右下のサイズボックスをドラッグすると、ダイアログボックスの大きさを変えることができます。

サイズボックス

5 [塗りつぶし] ツールで、犬の中をクリックします。輪郭の中だけが青で塗りつぶされます。

6 [プレビュー] ボタンをクリックすると、背景が透明になります。うまく切り抜けていれば [OK] ボタンをクリックして完了です。やり直したいときは、この状態で再度、[境界線マーカー] ツールで輪郭を描きます。輪郭の修正は、[消しゴム] ツールをドラッグして行います。

細い毛の部分もきれいに選択できている

7 輪郭が透明になり、犬だけを切り抜くことができました。ここではあらかじめ [背景] レイヤーに用意しておいたグラデーションの背景がバックに表示されています。

レイヤーの基本を押さえる

レイヤーの機能と種類

☞レイヤー

レイヤーは重なった層の意味。写真の上に直接描画するのではなく、透明なフィルムをのせてその上に描画することで、下の写真を保護したり、描画したものだけを動かすことが可能になります。Adobe Illustratorのレイヤー機能と操作はほぼ共通しています。

レイヤーに関しては、「月曜日」に少しだけ練習しましたが、うまく使うと本当に便利なものです。レイヤーは透明フィルムを重ねて作業しているようなものですが、ただの透明フィルムではありません。さまざまな機能を備えているのです。たとえばフィルム上の写真の色を半透明にしたり、下の写真の色によって変化させたり、特殊効果をかけることも可能です。基本的には「背景」の上に「レイヤー」が重なるという構造です（さらに詳しくは「金曜日」コラムで説明します）。

また、文字専用のレイヤーや、色調補正の専用レイヤーなども用意されています（文字レイヤーについては次のSTEPで紹介します）。

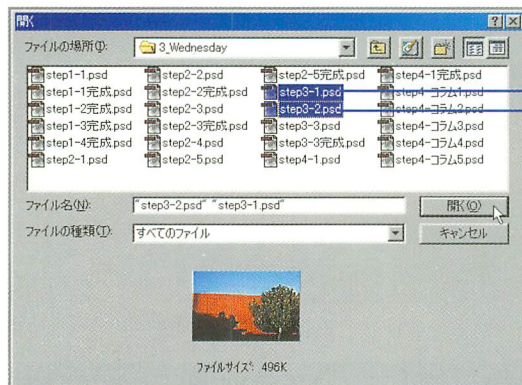
「月曜日」の練習では「新規レイヤーの作成」と「レイヤーの選択」について学習しました。ここでは以下のことを練習します。

(1) レイヤーの作り方とレイヤーの動かし方。

(2) 不透明度・描画モード・コントラストを変える。

(3) レイヤーの削除と複製。

(4) レイヤーの順番を入れ替える。

1 今回は2枚の写真を使います。［ファイル］メニュー→［開く］を選択して、「3_Wednesday」フォルダから「step3-1.psd」を選択し、Ctrlキーを押しながら「3-2.psd」を選択して［開く］ボタンをクリックします。

ここがポイント!!

複数のファイルを一度に開く

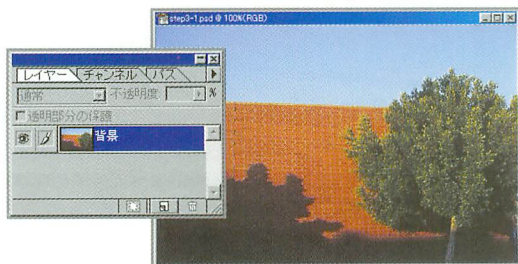
［開く］ダイアログボックスで、Ctrlキーを押しながらファイルをクリックしていくと、開くファイルを追加することができます。
また、ファイルを１つ選択し、Shiftキーを押しながら離れたファイルを選択すると、その間のファイルを全部一度に選択できます。

ドラッグ＆ドロップで新規レイヤーを作成する

［レイヤー］パレットで確認しながら、レイヤーの作り方と複製方法を練習します。

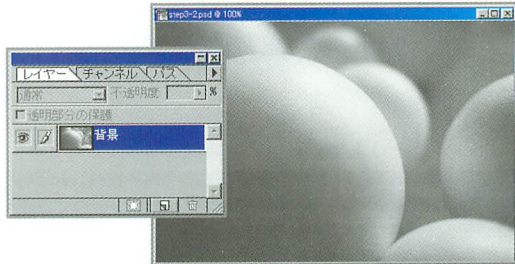
☞ヒント!!

レイヤーパレットのサイズ

新しいレイヤーを作っていくと、［レイヤー］パレットに表示しきれなくなります。［レイヤー］パレットは右下のサイズボックスで大きさを変えることができますから、全部のレイヤーが見えるように、大きさを変えてください。

1 「step3-1.psd」の写真です。

☞ヒント!!

レイヤーの名前

レイヤーの名前は、［レイヤー］パレットでレイヤー名をダブルクリックすると、自分で変更することも可能です。

2 もうひとつの「step3-2.psd」の写真です。両方の写真が見えるように、2つのウインドウを少しずらしておきましょう。

☞ドラッグ＆ドロップ

違うウインドウ間をドラッグして移動させ、マウスから手を離すと、「コピー」と「ペースト」が一度で行えます。とても便利な機能です。

3 ツールボックスから［移動］ツールを選び、「step3-2.psd」（グレースケールの写真）を「step3-1.psd」（カラーの写真）に**ドラッグ＆ドロップ**します。

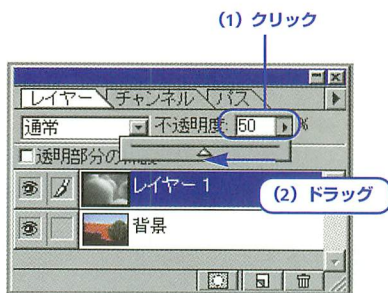
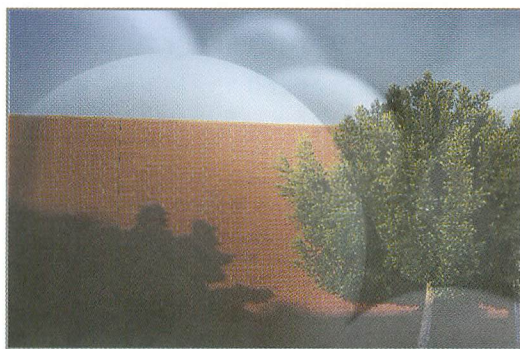
ここがポイント!!

自動的にレイヤーになる

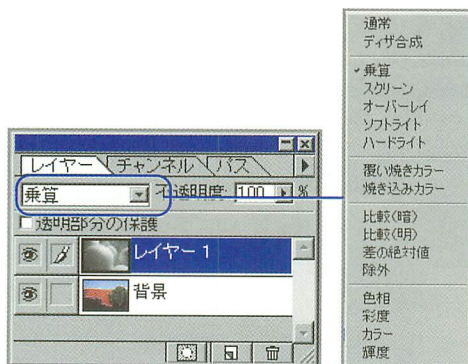
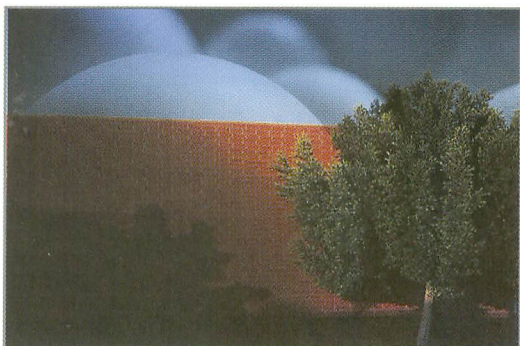
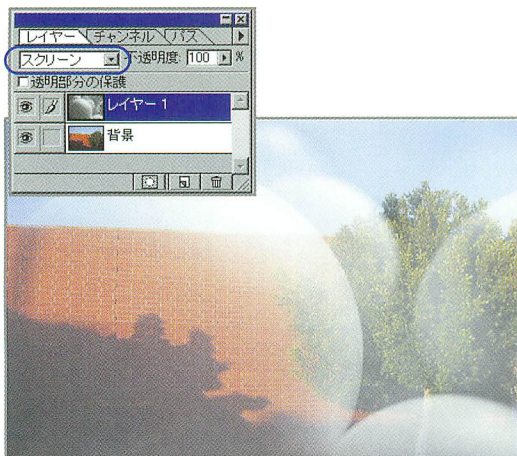
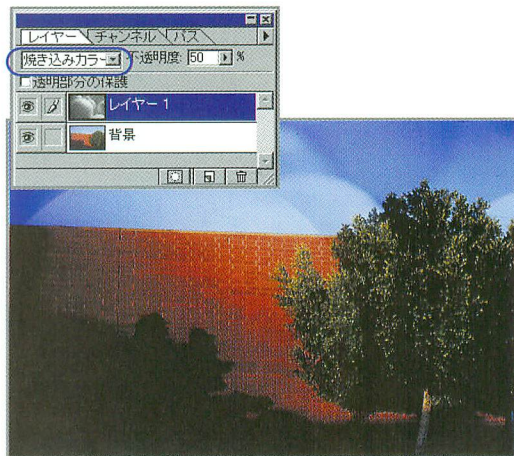
ドラッグ＆ドロップで写真を持ってくると、別レイヤーとして取り込まれます。レイヤーの名前は自動的に［レイヤー1］［レイヤー2］…となります。

4 カラーの写真のウインドウをクリックします。［レイヤー］パレットを確認すると、カラーの写真の上にグレースケールの写真が重なっていることがわかります。

不透明度を使って2枚の写真を重ねる

Photoshopでは、写真を半透明にすることができます。ただし、[背景] レイヤーには透明度の設定はできないので、注意してください。

1 [レイヤー1] レイヤーを選択し、[レイヤー] パレットの [不透明度] の△をドラッグするか、または直接数値を入力して [50] %とします。

2 上に重なっていた写真が半透明になって、下の写真がうっすらと見えてきました。

描画モードを使った特殊合成

[レイヤー] パレットでは、レイヤー同士の描画モードを変更できます。同じ写真でも描画モードを変えるだけで、まったく別の効果が得られます。手軽に派手な印象の合成写真ができあがるので、ぜひ試してみてください。

1 [レイヤー] パレットの [描画モード] をプレスすると、リストが表示されます。[レイヤー1] レイヤーが選択されていることを確認してから、[乗算] を選んでみましょう。

2 2枚の写真を重ねて表示するとき、[乗算] ではポジフィルムをライトテーブル上で重ねたように、色の濃い部分はより濃く、明るい部分はより明るくなります。

3 ほかにもいろいろ試してみましょう。[スクリーン]は2枚の写真をライトテーブルの上で重ねて見ているような効果になります。

4 これは、[焼き込みカラー]です。コントラストの強い写真になります。

レイヤーの削除と複製

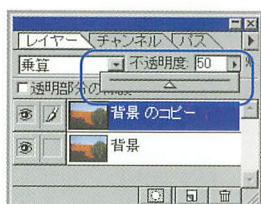
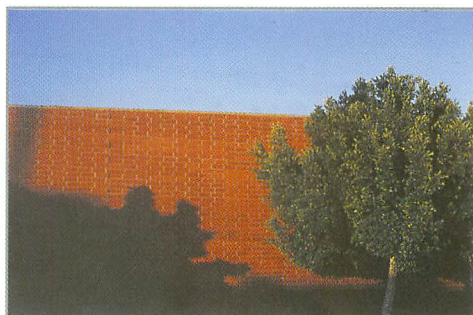
[レイヤー]パレットを使って、不要なレイヤーを削除する方法と、複製する方法を練習します。

1 不要なレイヤーは、[レイヤー]パレットの[ゴミ箱]アイコンへドラッグして削除することができます。

2 レイヤーを複製するには、複製したいレイヤーを[レイヤー]パレットの[新規レイヤー]ボタンに重ねます。

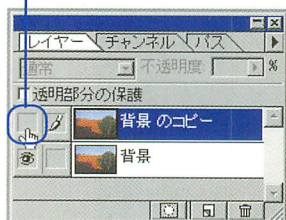
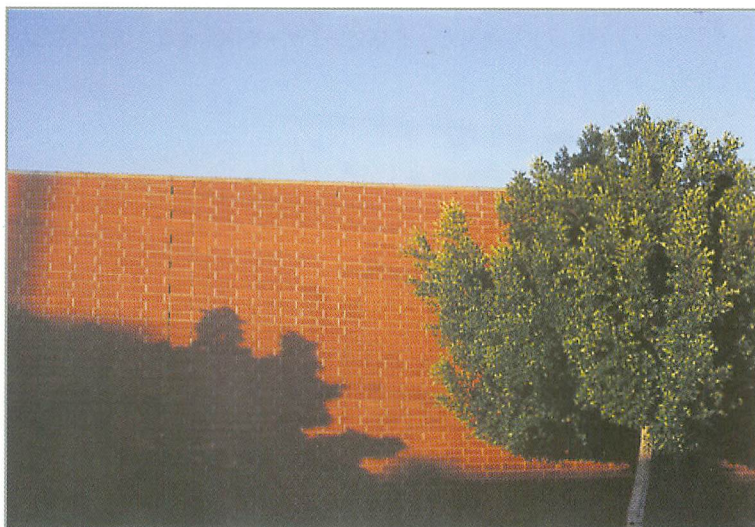
レイヤーを利用してコントラストをアップ

レイヤーを利用したプロご用達のレタッチ機能を紹介しましょう。描画モードは、合成写真を作り出すだけでなく、写真のコントラストを上げるなどの基本的なレタッチ作業にも大活躍してくれるのです。

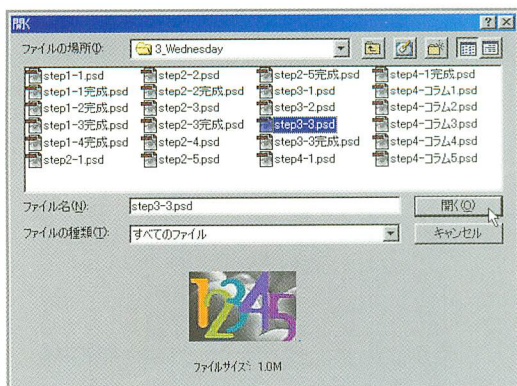
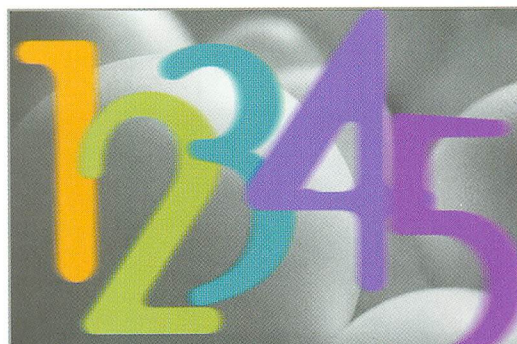
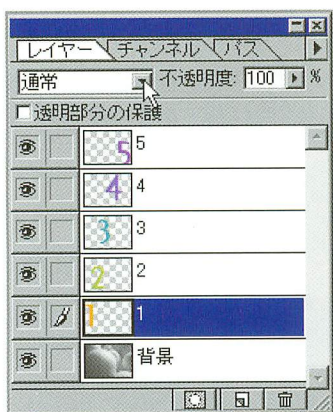
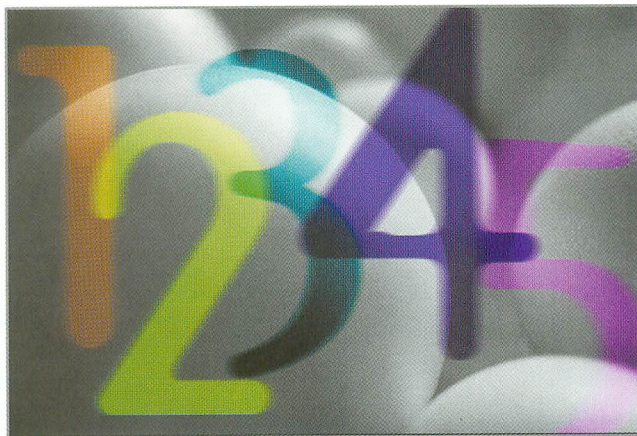
1 [レイヤー] パレットの [背景のコピー] レイヤーをクリックして選択し、描画モードを [乗算] にします。

2 このままでは効果が強すぎるので、[不透明度] の数値を [50] %前後に落とします。

3 2枚のレイヤーを [乗算] で重ねると、コントラストを強くすることができます。しかも、[レベル補正] などを使ったときのように画像の劣化はないので、知っておくと重宝します。

ここがポイント!!

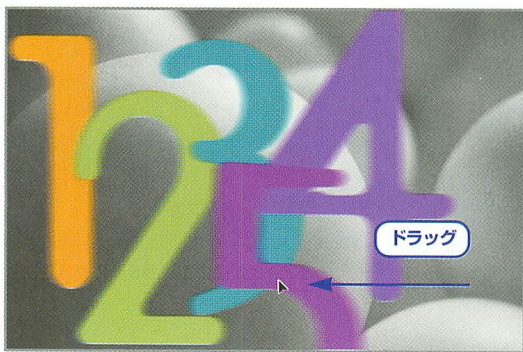
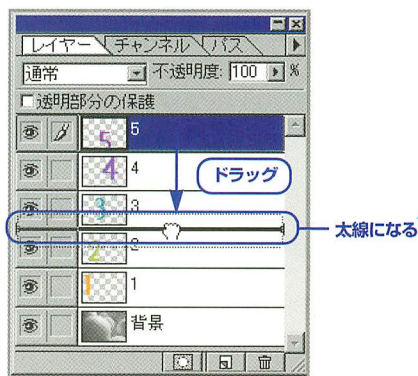
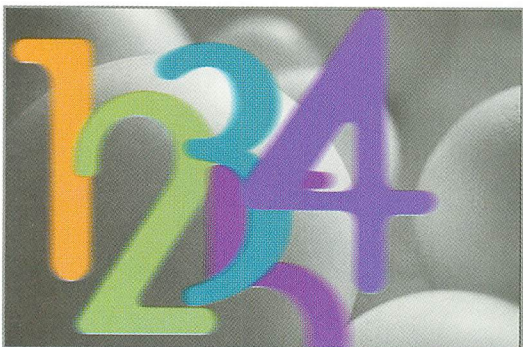
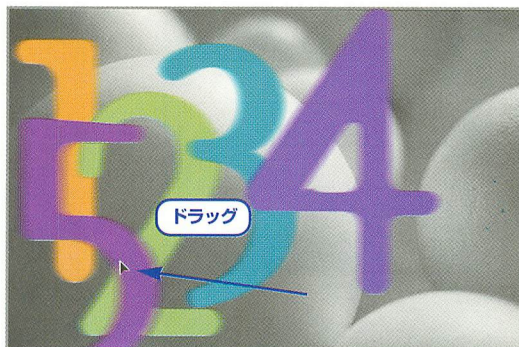
レイヤーの表示・非表示

[レイヤー] パレットの目のアイコンは、レイヤーの表示・非表示を切り替えるものです。クリックして目のアイコンを隠すと、画面上でもレイヤーが一時的に非表示になります。もう一度クリックすると、隠れていたレイヤーが表示されます。

4 [背景のコピー] レイヤーの目のアイコンをクリックします。

5 [背景のコピー] レイヤーが隠れて、オリジナルだけの状態になりました。乗算でコントラストが強くなっていたことがわかりますか？

複数のレイヤーを利用する

複数のレイヤーを利用する練習をしましょう。まずは5枚のレイヤーに別々の描画モードを指定します。レイヤーの選択操作をきちんと行ってください。

1 「3_Wednesday」フォルダの「step3-3.psd」を開きます。

2 グレースケールの写真の上に、1から5までの数字が並んでいます。

3 [レイヤー] パレットで構造を確認してみましょう。グレースケールの [背景] の上に、レイヤー [1] から [5] までが順番に別レイヤーとして重なっていることがわかりますよね。

4 さきほどの手順で、それぞれの数字のレイヤーを選択し、描画モードを変えてみましょう。数値により重なり合った色がさまざまに変化します。

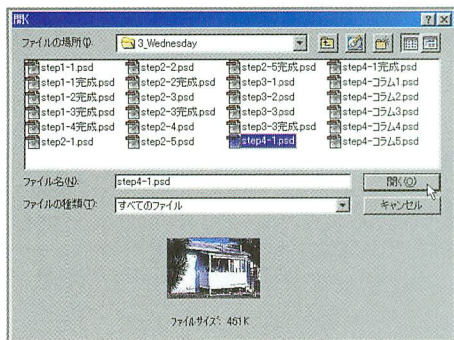
レイヤーの順番を入れ替える

レイヤー同士の重なり順は、［レイヤー］パレットの上にあるものが前面、下にあるものが背面となっています。もちろんこの順番は変更も自由です。レイヤーの順番を変える練習をしてみましょう。

1 ［レイヤー］パレットで［5］レイヤーを選択してください。ツールボックスの移動ツールで、「5」という数字を画面中央にドラッグします。

2 ［レイヤー］パレットで、移動したいレイヤーを移動先にドラッグします。ここでは［5］レイヤーを［3］レイヤーと［2］レイヤーの間にドラッグします。

3 「5」という数字が「2」と「3」の間に入ったのがわかりますか？　さらに移動ツールで5を動かしてみましょう。重なり順に関係なく、［レイヤー］パレットで選択されているレイヤーが移動の対象になります。

4 「1」と「2」のところに移動すると、それよりは上に重なっていることがわかります。それぞれのレイヤーを選択して順番を変えたり、位置を変える練習をしてみましょう。

文字を使ってみよう

文字レイヤーを使う

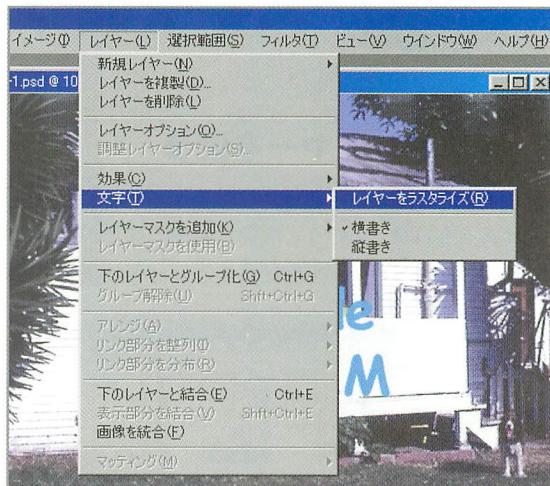
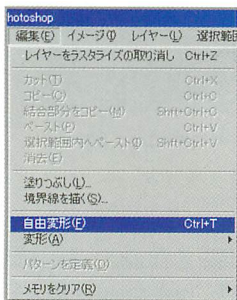
文字は文字レイヤーに作られます。そして再編集も可能です。ある程度の制限はあるものの、変形など画像と同様の操作が可能です。文字をラスタライズして画像に変換すれば、画像に対するすべての機能が制限なく利用できます。

文字の入力は「月曜日」でもやりましたね。忘れてしまったという人は、「月曜日」を復習してください。

1 今度は建物の写真を使います。「3_Wednesday」フォルダの「step4-1.psd」を開きます。

2 ツールボックスの［文字］ツールを選びます。［文字］ツールには何種類かありますが、ここでは初期設定のまま、図の［文字］ツールを使います。

3 ［文字］ツールで画像の上をクリックすると、［文字ツール］ダイアログボックスが現れます。適当なフォントを選び、下の入力ボックスをクリックしてから、まず小文字で「handmade」と入力します。Enterキーで改行し、大文字で「ICECREAM」と入力します。大文字を入力するには、Shiftキーを押しながら、あるいはShiftキー＋capslockキーでcapslock状態にして文字を入力します。

4 少し設定を加えてみましょう。「handmade」の文字を12ポイントにして［斜体］にしました。また、「handmade」と「ICECREAM」との間隔を狭くするために、［行間］を［17］に設定しました。設定はそれぞれの行を選択して別々に行います。

5 文字が入力されました。[レイヤー] パレットを見ると、文字レイヤーが [handmade ICECREAM] という名前で作成されています。

6 入力した文字が壁に書かれているように変形したいのですが、文字の状態では不可能です。文字を通常の画像と同じ状態にするには、[レイヤー] メニュー→ [文字] → [レイヤーをラスタライズ] を選択して実行します。

7 文字レイヤーをラスタライズしたら、変形も可能です。[編集] メニュー→ [自由変形] (Ctrlキー+T) を選びます。

8 文字の周りにハンドルが現れます。Ctrlキーを押しながらハンドルをドラッグすると、ハンドルを1つずつ個別に動かすことができます。最後に範囲内をダブルクリックして変形を確定させます。

ここがポイント!!

「文字」を「絵」にしないと使えない機能がある

文字レイヤーでは、再編集が可能な「文字」として管理されています。ところがその文字にグラデーションを入れたり、変形したりするには、写真と同様、「絵」になっていないと処理できません。「文字」を「絵」に変換するには、[レイヤー] メニュー→ [文字] → [レイヤーをラスタライズ] を実行します。ただし、いったんラスタライズすると、「文字」としての再編集はできなくなりますから、気を付けてください。

くりぬき文字を作る

「特殊効果」を使えば、特殊なスタイルの文字が作れます。このコマンドは、レイヤー（文字レイヤーも含めて）に対してのみ利用できる便利な機能です。

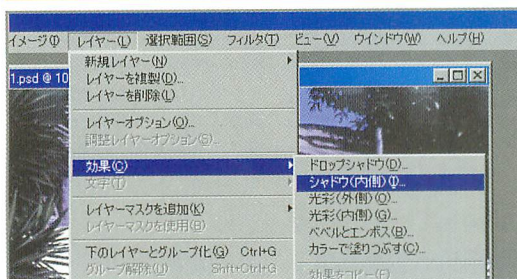
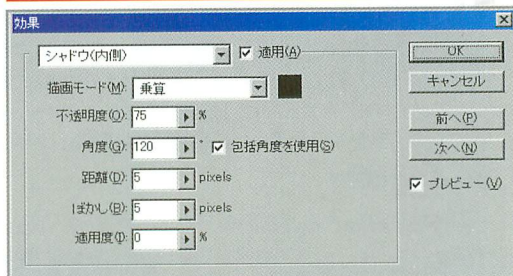
☞ヒント!!

ドロップシャドウやくりぬき文字

［レイヤー］メニュー→［効果］を使うと、影文字（ドロップシャドウ）やくりぬき文字、型押し文字といった特殊な文字が簡単に作れます。再編集も可能なので、便利です。このコマンドは文字以外の画像に対しても実行できます。

☞ヒント!!

影色は黒だけじゃない

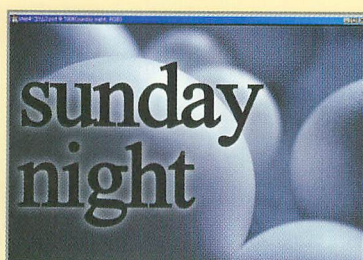
影の色を変更することも可能です。影の色の変更はカラーピッカーで行います。適当な色を選んでください。

1 ［レイヤー］メニュー→［効果］には、文字の効果として便利な機能が6種類用意されています。ここでは文字のレイヤーを選択した状態で［シャドウ（内側）］を選びます。

2 ［シャドウ（内側）］の設定画面で［適用］にチェックを入れ、［距離］［ぼかし］［適用度］の数値を設定します。［プレビュー］にチェックを入れておくと、設定に合わせて画面が変わるので、その様子を見ながらいろいろ試してみてください。

3 文字の中に影が入り、ちょうど文字がくりぬかれているように見えます。

4 再編集を行うには、［レイヤー］パレットの［f］ボタンをダブルクリックします。図2のような［効果］ダイアログボックスが現れますので、数値を設定し直してください。

ちょっとコラム 文字と写真で表現力を広げる

●影文字やエンボス文字を作る

Photoshopは、文字に対しても、ほとんど画像と同様の機能が使えます。特に［レイヤー］メニューの［効果］は、影文字やエンボス文字など文字のバリエーションを作れる手軽なコマンドとして重宝しますよ。

1 ［レイヤー］メニューの［効果］の［ドロップシャドウ］（左）と［光彩（外側）］（右）。影や光彩のずらし具合やぼかし具合、それに色も設定できます。

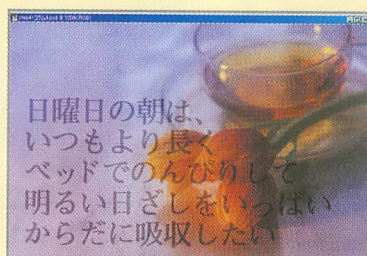
2 ［レイヤー］パレットの［f］をダブルクリックすれば［効果］の再編集が、［T］をダブルクリックすれば文字の再編集が可能です。

●縦書きと横書き

縦書き、横書きのどちらでも入力可能で、あとからの切り替えがきく点も魅力です。

3 ［縦書き文字］ツールを使えば、縦書きも可能です。横書きと縦書きの切り替えも簡単で、［レイヤー］メニュー→［文字］で、［横書き］か［縦書き］を選びます。

●文字の選択範囲

文字を選択範囲として作成すれば、さらに表現力が広がります。

4 ［文字マスク］ツールは文字の選択範囲を作るツールです。写真の上で文字内だけの選択範囲を作って、［レベル補正］でその部分だけを濃くすることも可能です。Photoshopならではの文字効果です。

5 文字の選択範囲に、［編集］メニューの［選択範囲にペースト］で、コピーしておいた画像を入れることも可能です。